

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2019年12月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2019年12月6日～12月28日
- 調査対象 200社
- 回答企業 121社
- 回収率 60.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の12月の状況を見ると業況DIは、前月より8.7ポイント改善の▲16.5となった。

2017年9月以来28ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲23.1、当月に比べ6.6ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2019年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2020年1月～ 3月
業況	▲16.0	▲16.1	▲17.1	▲20.0	▲25.2	▲16.5	▲23.1
売上	▲8.0	▲3.2	▲4.1	▲14.1	▲26.0	▲22.3	▲23.2
採算	▲16.0	▲12.1	▲12.2	▲15.8	▲26.1	▲19.0	▲19.8
仕入単価	▲41.6	▲29.9	▲34.1	▲39.2	▲40.7	▲35.5	▲34.7
販売単価	5.6	2.5	4.9	13.3	2.6	5.8	3.3
従業員	37.6	35.5	36.6	40.9	29.4	31.4	27.3
資金繰り	▲6.4	▲7.3	▲4.9	▲6.7	▲4.2	▲6.6	▲9.9

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2019年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2020年1月～ 3月
建設	▲3.5	▲6.7	▲16.1	▲20.0	▲30.0	▲17.2	▲24.1
製造	▲19.3	▲19.3	▲13.8	▲11.1	▲26.6	▲7.1	▲14.3
卸売	▲16.7	▲12.0	▲4.1	▲11.5	▲17.4	▲12.0	▲24.0
小売	▲22.2	▲15.8	▲16.7	▲35.3	▲26.3	▲21.0	▲21.0
サービス	▲20.8	▲31.6	▲38.1	▲30.0	▲23.5	▲30.0	▲35.0

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足の影響、働き方改革の影響が大きい。（総合工事） ・業界の業況は極めて悪い。市及び商工会議所の将来に対する理念や計画が見えず企業の進路を決めることが困難である。（設備・その他） ・現状の仕事量からいえば人手は足りているが、将来的なことを考えると新入社員が必要。（設備・その他） ・12月～2月まで工事中断による悪化。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業設備投資の検討。（家具木材） ・12月決算だが予想以上の利益を出して終わることが出来た。売上高の増加もあるが、作業の効率化に取り組んできた芽がやっと出てきたと思う。ただ人手不足は変わらず課題であり、来年4月からの採用が見通せていない。（金属窯業他） ・製造品の一部を設備も含め他社に譲渡。採算条件の良い製品への絞り込みを実施。今後の製品構成を考え設備更新。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上は好調だが利益率は売上に対してさほど伴っていない。（機械鋼材） ・灯油の需要期に入り先月より仕入値が上昇しており、今月に入り販売価格に転嫁している。上げ幅は小幅なと思われる。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の老朽化。（食料品） ・従業員不足が続いており、12月、1月と稼働日数が少なくなるので売上減少が心配である。（その他） ・原油価格が徐々に値上がり気味になってきているため仕入価格が上昇し、今後販売価格への転嫁が必要となる。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・設備更新に迫られ今後、数年多額の出費が必要。（ホテル・旅館） ・働き方改革の導入により、作業効率を重視する余り分業化に拍車がかかり、技術継承が困難になってきている。（その他） ・消費税引上げ後、客数激減。野菜の仕入値も高く悲鳴。最低賃金引上げも打撃。（飲食） ・増税の影響か売上が伸び悩んでいる。（飲食） ・人手不足の影響がダイヤ便数確保の障害となっている。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI12.7 ポイント改善、採算 DI12.7 ポイント改善、仕入単価 DI18.6 ポイント改善、販売単価 DI13.8 ポイント改善、資金 DI0.2 ポイント悪化、従業員 DI5.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.8 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業 8 ポイント悪化、総合工事 14 ポイント、設備・その他 17 ポイント改善となった。技術系職員の不足、社員の育成との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI26.0 ポイント悪化、採算 DI9.2 ポイント改善、仕入単価 DI11.9 ポイント改善、販売単価 DI11.2 ポイント改善、資金 DI0.5 ポイント改善、従業員 DI5.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 19.5 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、印刷・出版横ばい、食料品 14 ポイント、家具・木材 37 ポイント改善、金属窯業他 29 ポイント改善となった。事業好転の兆しが見られるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI9.4 ポイント改善、採算 DI0.4 ポイント改善、仕入単価 DI10.6 ポイント悪化、販売単価 DI12.7 ポイント改善、資金 DI7.6 ポイント悪化、従業員 DI2.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.4 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、機械鋼材 8 ポイント悪化、その他横ばい、繊維・衣服等 20 ポイント、食料品 13 ポイント改善となった。売上は好調だが利益率は売上に対してさほど伴っていないとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI15.8 ポイント改善、採算 DI5.2 ポイント悪化、仕入単価 DI5.2 ポイント改善、販売単価 DI10.5 ポイント悪化、資金 DI 横ばい、従業員 DI 横ばい、総じて業況 DI は 5.3 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、自動車横ばい、食料品 20 ポイント、その他 3 ポイント改善となった。従業員不足が続いており 12 月、1 月と稼働日数が少なくなるため売上減少が心配との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI15.3 ポイント改善、採算 DI17.1 ポイント改善、仕入単価 DI7.1 ポイント改善、販売単価 DI 5.0 ポイント悪化、資金 DI2.4 ポイント悪化、従業員 DI26.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.5 ポイント悪化となった。業種別では、整備業 50 ポイント改善、その他、飲食横ばい、理美容・クリーニング 200 ポイント、ホテル・旅館 17 ポイント、運送 33 ポイント悪化となった。客先事業の縮小に伴う当社取引の廃止との声も寄せられている。</p>